

参加できて心の底からよかったなという気持ちでいっぱい (まとめ会より)

レポート：宇良あみ
(旧姓久保村)
福西暁里

福西:

参加できて心の底からよかったなという気持ちでいっぱい。27歳で初めて海外に来た。英語がしゃべれない、世界を見るのが怖いというのがあったが今回デンマークに来て世界を知って視野が広がり気持ちが楽になりました

いろんな場所から来た人と研修し、お酒飲んでいろんな考え方を知ることが出来ました。保育士として今の保育園で自己肯定感、見守る保育を実践しているが、聞いただけではわからなかったものを、見て学べた感があり保育士の仕事は素敵な仕事だということを心の底から思いました。

日本の保育士は人生の大事な時期を預かっているのに自信をもって子どもを尊重して保育できているのか？な、と考えさせられました。

生まれたときから人生は継続されているということを学びみんな生き生き明るく楽しそうに暮らしているのが素敵だなと思いました。保育園は木もあり森もあるがそれを活かし切れておらず、関わるという一つにおいても違い、環境をうまく設定し接している。必要以上のかかわりはしていないそういうとことを学ぶことができた。

長内:

元気がない状況であったが、参加できてよかった。目的は半分位達成されたように思います。皆のまじめで真摯な態度、福祉に向かい合う態度に励まされました。

夏代さんと地元の方との関係性は素晴



<妙に気が合う二人>

らしいものがあり夏代さんの為全部教えちゃうよといった雰囲気、この雰囲気勉強会はこのツアーだけであろうと改めて感心・感動をしました。

山口:

こんな研修があるなんて驚きです。ソルバングにみなさんの訪問は伝統になっていますという挨拶を聞いてすごいと感じ、また最後に訪問させていただいたお年寄り、私の命が続く限り、みなさんの訪問をお迎えしたいと言っておられ、このような素晴らしい関係のできている中でいろんな課題の中身を教えていただき、この研修の中身はとても深く素晴らしいものなので自分に与えているものはとても大きく、深いものだと感じています。

退職し自分のこれからの人生どうしていこうかという課題について、視野を広げたいという気持ちでこの研修に参加し、こんなに人が輝ける国、尊重されているデン

マークという国が現実にあるということを知り、希望を持つことができました。

質問：今日本では地域包括ケアとか介護とかを中学校単位で医療も介護も体制を作っているのですが、施設から在宅へという動きが進んでいます。デンマークでは施設を住まいという考え方に変えていったわけですが、どのようなことに重きを置いて進めていったのですか？

返答：高齢者審議会というものを設け、2年越しにこれからの高齢者をどうするかを考えていきました。その中で、これからのデンマーク人は出来るだけ長く、自分の住み慣れた家で過ごしたいだろうということと、在宅サービスはお金がかかるという考え方がちょうどその時期に一致したのでうまく進んだのです。

杉本：

こんなに歓迎される研修はほかにはなく、とても中身が濃く、いい研修に参加できたと思っています。中身の濃い研修に参加ができた。マーサメオ方式にはカルチャーショックでした。映画でなく実話で起きている現実に涙が止まらなかったです。

感動して日本でどう取り入れよう。何とか取り入れたい切り口を見つけたいと思いました。この研修でたくさん歩き、歩けたことで体力に自信もつきました。夏代さんのイチゴの話に感動しました。日本は決められた箱に決められた形がいいとされていますが、デンマークは“みんな違っていい”としている。日本はもったいないことをしていると思いました。日本に帰って実行できるのは、子どもが失敗してもとがめず成功体験を多く重ね、専門的な職に繋げることだと思っています。

毎日聞いていた聖堂の鐘も明日で聞けないと思うと寂しく思います。

松本：

デンマークに来てとても素晴らしい国だと思いましたが、日本をほめたい気持ちになりました。日本もデンマークも人を大切にするという気持ちは同じですが、ただそれを国によって行政や国の方針に違いがあるんだなと思います。

そして、デンマークの人々はとてもかわいくて、日本に帰っても人のことを大切に、そしてかわいく思い支援をしたいと思います。

この研修で出会った仲間を大切に、研修に参加させてくれた職場の仲間感謝したいです。

中野：

デンマークは消費税が高くても消費税の使用先がきちんと明確にされているということで、幸福度につながっているのだと感じます。日本もその点を明確にしてほしいと感じます。私が働いている施設に取り入れてみたい点が、高齢者施設のドアや壁の色を明るいものにするということ、日本は対処療法ですぐに医療に頼ってしまうが頼らないことで、徐々に職員にらせていきたいです。

デンマークに来たことは、自分のとてもいい経験になり本当によかったです。

中谷：

今回の研修では自分を解放できたことがとてもよかったです。

また、皆さんに出会えていろいろなことを話ができ楽しかったです。

今回の一番の目的は紙芝居がほかの国でも通用するかということでした。読んでみて、しっかりとした手ごたえを感じたので、しまだ紙芝居クラブの仲間にも伝えたいです。今回デンマークに来て、デンマー

クと日本を比べるよりも、日本の現実を踏まえて感じたことは、人を大切に思う気持ちはどちらの国も同じだと感じたことです。

一番心に残っていることは、ほこりで亡くなる人はいなくても、寂しさに亡くなる人はいるという言葉です。今、地元で居場所づくりの企画にも参加し、紙芝居を読む活動をしていて、お年寄りの前で紙芝居を読んでいます。何度も同じ紙芝居を読んでも、毎回微笑んでくれる方がいて、寄り添うこと、人を大切に思うこと、手を握ること、触れ合うことの大事さをデンマークの高齢者施設のお年寄りと頬を合わせた時に感じました。また、小学校には福祉教育というカリキュラムがありますが、年二回ほどの行事だけで終わっていることが多いです。小学校の教員時代に子どもたちに伝えていた好きな言葉で“普段の生活を幸せに”の頭文字をとって“ふくし”という言葉がある。これを飾り文句にするのではなく、デンマークでは実際に一人ひとりがその人らしく幸せに生きていて、これを日本の小学校にも伝えたい、そして、福祉教育というものをしっかりと考えられるようにしなければならぬと感じました。今学生をしていて、大学で報告会をし、同級生にも参加しておいでと伝えたいです。

原：

デンマークに来て自然にあふれていて資源を大切にしているということ、民主主義が基本で一人ひとりが大切にされていることがわかりました。

一番心に残っていることは市長のジョーイさんの話で年齢は関係なく熱意をもって取り組めば夢につながるということです。まだ夢は決まっていませんが情熱をもって様々なことに熱意をもって取り組

んでいきたいと感じました。また、森の幼稚園に行くことで父の仕事のすばらしさを感じ、母と父に研修に参加させてもらったことを感謝しています。また、新潟の森の幼稚園に遊びにきてください。

富山：

なんとなく参加した研修でしたが、いろいろな施設に行き、高揚感でいっぱいでは参加できて本当によかったと感じています。朝の散歩も意味があるのかなと感じていましたが、実際に歩くことを通して全体でデンマークを感じられたこと、自由時間に迷子になってしまったこと、すべて日本にいると経験できなかったことだと思います。

井上：

毎回、夏代さんと中能さんには感謝しています。4回目の参加です。

このデンマーク研修に参加される方々はいつもまじめな方ばかりだなと感じています

この宿泊施設ダンホステルは3年前に来た際にエレベーターの工事が始まっていましたが、去年来た時にはまだできていませんでした。



<ロスキレ駅前にて>

そして今年来るとできていました。デンマークは物によってはとても時間のかかるものがあるが、システムなどに関してはとても早く出来るものもあるのだと感じます。

実際、街をあるくとそれらが感じられることが多くありますが、同時にそれぞれの人がその人らしく豊かに過ごすというテーマに沿って過ごせるように国が作られているのだとわかります。なぜそうなるかという質問をして答えを聞いてもわからないが、何度も大好きなデンマークに来るとわかったような気になり、日本で出来ないことができる可能性、また毎回新しい発見があることを感じるができます。

また日本は平等や人権という言葉を使いたがるが、デンマークは人権という言葉を使わないということを感じています。それは人権が完成されているから、また、みんなが同じ気持ちを持てるように工夫されているのだと思います。

人生が必ず終わることは決まっているが、最後まで豊かな人生を終えられるように、デンマークで学ぶことができたらいいなと感じています。

櫻谷：

私は2年前に立命館大学を退職する際の退職最終講義で“個を大切に作るデンマークの保育に学ぶ”についてという講義を発表しました。デンマークは子育て、障がい、若者の教育、引きこもり支援などについてしっかりサポートされていて、人生の何度もやり直しがきくという素晴らしさがあります。何度来ても知らないことばかりで新しいことを学ぶことができる魅力のある興味の尽きない

国です。課題もたくさんあるのでそれをどう乗り越えていくかという方法を見ていくことがとても面白いです。

デンマークでさりげなくできていることがなぜ日本でできないかという不思議さがあるが、それは政治の問題だと思います。大阪の阪南市で0歳から5歳までの600人の子どもが入る保育園を作ろうとしています。保育園を作ればいいということではなく、子どもは自然が好きでどのような環境で育つべきかということ、もう少し日本国民が考えられるようにしていかなければならないと感じます。

中嶋：

20数年前、事務の仕事をしておりそこで見ていたポスターに「日本の税金3%ほかの国は20%、日本の税金は3%で頑張っています素晴らしい国です」と書いてあり、ほんとに高いよなと感じていました。介護に就職し、デンマークのことを知り教育、福祉が充実しており税金が高くてもいいよなと感じました。

これから仕事をしていく中でプラス1歩ずつ変わっていったら、上がっていったらいいなと思っています。



加藤：

はじめは緊張しながら研修に参加しま

した。盛りだくさんの研修に参加させていただき自立、自己決定までの道、過程が分かりやすく魅力的な研修でした。

デンマークに来て目で見て触れて感じられてよかったです。施設長もそれを知ってほしくて毎年参加させてくれているんだなと思うと感謝しています。

来年はリハの人も来てもいいなと思いました。変えていくのは大変なことなので、小さなことから変えていけたらいいなと思っています。違う分野で頑張っている皆さんに会えて心から感謝しています。自分らしく頑張っていこうと思いました。

多田:

デンマークという手話があり(旗のイメージ) 視覚的にも印象に残っています。

綺麗なものを見て感動して、感じる事が大事だと改めて思いました。またそれを感じるのも大事だなと思いました。日本に帰って感動すること、美しい風景をなくならないようにすることも大事だなと思ったので残していけるように考えていきたいです。

デンマークはいい風景がたくさんあり人も良くいい体験ができました。夏代さんの通訳もわかりやすく現地の人のも心に残すことができました。

服部:

去年退職して家でぼーっとしていたところ長内さんの誘われて参加しました。デンマークはとてもきれいで緑も多く心が洗われ、疲れも取れたように思います

濃縮された研修で身になればいいなと思います。若い人は職場の問題意識をもって参加されていて、これからの時代は皆さんの時代なので頑張ってください。

山城:

沖縄でチューリップポーク缶というデンマーク産のものがあって、小さいころからそれでデンマークという国を知っていました。ついにそのデンマークに来るんだなと参加しました。長旅で到着したときはどうしようかと思っていたが、研修に参加した初日から来てよかったです。

マーサメオは誰かがきちんと学んで日本に持っていけば、すぐに浸透するなと感じたが始めるにはトップの理解が必要で理解があれば絶対できるなと思いました。行く前はデンマークがなんでも 100%できている国だと思っていたが、できていない部分とできている部分もあり日本のほうができている部分もあるなと違いが分かりました。

研修は話を聞くだけのインプットだったので日本に帰ってからアウトプットできたらいいなと思っています。

仕事でペアレントトレーニングしています。自己肯定感をあげるトレーニングで発達障害を持っている親・子どもを対象にしている、やっていることが間違えていなかったなと大発見できてよかったです。

久保村:

助けの必要な方に手を貸してしてあげるという考えではなく、その方の QOL を大切に自立を保てるようなサポートをされているんだなと気づき、聞くだけでなく見てわかることができました。

スバイの訪問で高齢者の元気な姿もみてすごく温かい国だなと思い、職員の考えも扉の絵は立ち止まり声をかけるためだけの扉だと教えていただき、発想も素敵だなと思いました。食事の面はあまり見れませんが、交流会で 95 歳の女性の方の隣に座りみんなと一緒にものを食べ、お

酒を飲みフォークとナイフを使いこなし食事をされている姿を見て、18歳まで歯の治療や矯正の無料、幼いころからの歯の治療は高齢者になってもしっかり自分で食べられるということに、つながっているのではないかなと感心しました。研修に参加したことでもいろんな年代の方とお話できて、遠方の方との出会いにも感謝しています。私自身結婚が決まったばかりで、その話もたくさんさせていただきました。

人生の先輩から結婚はこんなもんだよなど教えてもらったので、相手を大事にしないとなど思いました。

竹村:

感謝でいっぱいです。連携だよ、つながっていくんだよと簡単に言っているけれども本当のその意味をデンマークにきて感じる事ができたかなと思います。

子どもから高齢者まで人の人生すべて、分野は違っても同じ芯があり、役割や誇りをもって私たちに話してくれたことすご

いなど思っています。帰ったら自分は何ができるのかしっかり考えたいなど思っています。

環境や人のかかわり方が自然で普通にできる姿が素敵だなと思いました

劔:

学童保育でいろんな考えの方がいる中で折り合いをつけていかないといけず、保育教育の方針や保育方針において葛藤する部分があった。自分の中でこうだというものがあったのだがやり方を批判されていたが、ここにきて間違えていなかったと思うことができました。自立とはこうだ、自分で自分のことはする。この考えが厳しすぎると言われていたので孤独を感じていたが、ここにきて確信、自信を持つことができました。

自分の中で譲れない部分であったので、今後も変わることはない形にしていきたい。



<ダンホステルの前に集合>

＜デンマークの位置＞

